

令和3年度第1回石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 会議録

■日 時 令和3年6月9日（水） 18時～19時55分

■出席者 別紙のとおり

■会議内容

会議に先立ち、市長より各委員に委嘱状を交付

1 会議開催について

委員数20名に対して19名が出席しており会議は成立。

2 市長あいさつ

3 会長及び副会長の選出

委員の互選により、会長に後藤委員、副会長に阿部委員が選出された。

会長あいさつ

過去約5年間、皆様と一緒にこの会議を運営してきたが、今日改めて齋藤新市長のもとで委嘱状を頂戴した。今日から新しくこの会に参加をされている委員の皆さんもいらっしゃるが、総合戦略推進会議は、石巻市が行政の活動を推進していく中で、KPIを設定したそれぞれ約60の項目に対して事業の進捗度合い等々を市民の目線で評価をさせていただく会議である。皆様方からより有意義な御意見・御提案等を頂戴して、施策に反映していくという、非常に大切な会議だと思っている。皆様のそれぞれの業界の立場、それぞれの地域を代表されている立場での御意見を、市に吸い上げていただく大変重要な会議であるので、是非積極的に発言いただき、この会議を盛り上げていただければと思っている。復興の総仕上げから、新しい石巻への序章の1年間だと思うので、皆様と1年間力を合わせてやっていきたい。

4 議事

(1) 報告事項

ア 第1期石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について

(説明：SDGs地域戦略推進室)

(委員)

基本目標4について、若い人の流出が多い。特に出生率であるが、産科が少ないのではないかと。市立病院の中に産婦人科、産科がきちんと確立されていれば、これから子どもを産み育てる方に良いと思うので、御検討をお願いしたい。

(事務局)

出産可能な年代の女性が少ないということ、その要因の一つとして産科が少ないというのも関係していると思う。直接的、間接的な要因というのは様々あるかと思うが、次の計画の策定や、各施策の実施に際して参考にさせていただきたい。

(会長)

ある個人産科医院が最近診療をしていないという噂があった。調べてみたら、診療していたのだが、正しい情報が伝わるということも大事だと感じた。そういったことも市で発信していくと良いだろう。

(委員)

基本目標3の「市立高校の生徒が本市に住み続けたいと思う割合」について、他の市町村で、同じような統計をとっているのか。また、その場合どのくらいの数字になっているのか。特に人口が増えているような都市、若者が集まって行きやすい都市ではこの数字はどうなっているのか。

(事務局)

他市町村の状況については、調査はしていない。今後参考にさせていただきたい。

(委員)

どういうところに魅力を感じると、地元に残りたいかというヒントが見つかるか、改善策への具体的な提案ができると思う。

イ 第2期石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略（人口戦略（中間案））について

（説明：SDGs地域戦略推進室）

(委員)

産業の中で農業、漁業については、これまでの5年間でずいぶん石巻市でも力を入れてやってきているが、林業の遅れをすごく感じている。北上地区はほぼ山林であるが手入れされておらず、災害の危機を感じるほどである。森林環境譲与税の今後の使い方がどの程度計画されているのか。

また、他地域では若い人達の林業への参加が他地域は活発化してきている。地域おこし協力隊の活動として林業を少し強化してみるとか、また、日本製紙や合板会社等、石巻は林業と近い大企業があることも考えると、林業の強化についても、今後、この計画の中で力を入れて行ってほしい。

それから、対応方針4の災害に強く安全安心に暮らせる魅力的なまちをつくるというところで、そこで施策を追っていくと、最終的に、複合文化施設利用者数となっている。なぜここでこれが出てきたのかと思った。目標の数値というのは、こういった基準でどのように決めているのか。

(事務局)

林業については、人口戦略と一緒に策定しようとしている総合計画の方で触れてい

る。農業、漁業とともに、力を入れていかなければならないと思う。

数値目標の設定については、それぞれの対応方針に対して色々なアプローチの仕方がある中で、それらを1つにまとめたときにどれが良いだろうと考え、今お示しさせていただいている数値目標を選んだ。

(市長)

林業は大事である。私は人材を育てなくてはいけないということで、林業大学校、森林大学校を作ろうと提唱したが、大変な財源が必要ということで、断念せざるを得なかった。しかし、県の取組として林業カレッジというものを作り、1年間研修をして、林業技術者を育成することとなった。石巻市も森林が多いが、だいぶ荒れており、これを整備することを求められているので、その人材育成にしっかりと取り組んでいかなくてはいけない。地域おこし協力隊で林業に携わっていただき、それを生業としてそのまま石巻に定住していただければとも思う。

(委員)

コロナ禍の今こそ石巻の住みやすさをアピールする大チャンスなのではないか。落ち着いたときにはもう遅い。

対応方針2の施策1について、地方移住・移転の推進を図るという重点施策だが、本当にこれで良いのか。例えば、石巻に住んだメリットとして、お試し特典で、1年間何かの税金を少し免除したり、石巻の美味しいお米を5袋プレゼントする等、全国に先駆けて魅力を発信して、こちらに住まう機会を作してほしい。

石巻市は自然も豊かで、SDGsに関してもこれだけ力を入れて実践している。積極的に施策を進めるときこそ今度は発信の力が大事だと思うので、ぜひ全国の一人でも多くの人たちに対して発信してほしい。

(事務局)

移住定住については、市長の公約の中でも重要な位置を占める事業になっている。今回6月議会で予算提案している移住定住を支援する助成金の制度の創設、新たな地域おこし協力隊の枠の拡大等、積極的に打ち出していく。今議会で予算が議決になってからになるが、積極的に動いていく段取りにしている。

(市長)

市民の皆様に本気度をしっかりと認識していただくために、移住定住を促進するための課の創設も含めて検討している。

(委員)

私の同世代がちょうど都会でそろそろ引退になる。この世代はもうほとんどがSNSで情報を得る時代になっているので、ぜひ石巻の魅力の発信や、移住の特集等を作ってください、強力に発信するツールとしてもう少し今どきの新しい取組をしながら、面白いまちだと思われるようなきっかけを作っていただきたい。

(事務局)

移住してきて賃貸物件に住む場合や、移住後一人ではなく両親等と住んだりするための改修の部分もカバーしたいと考えている。

(委員)

医療で産婦人科というのは非常にリスクーということで、医者になりたがらない現状がある。石巻に定住させるためには、日赤を中心とした中核病院と個人の病院との役割をもう一度精査しないといけない。患者を手厚い保護でケアし、協力し合えるような医療ができれば、子どもを産むことについても、あるいは老後の医療に対してもきめ細かいことができるのではないかと。

それから、子どもたちに石巻市に誇りを持たせたい。教育問題というのは学校の先生のみ任せではいけない。定期的に異動するため、石巻のために子どもを育てようという考えが今はない。こういう問題に、教育委員会の人も参加して、市民の声を反映した中で教育の問題に入り込めるような施策をぜひ考えてほしい。

(事務局)

気楽にいける医療機関が整備されているというだけでも安心でき、心の健康にも寄与するかと思うので、その辺の体制作り、総合計画のほうになるが、取り組んでいきたいと思う。

また、市長も、石巻市に対する誇りということを発言している。石巻市としても志教育に取り組んでいるので、自分のまちに対する誇りというものを大人だけでなく、子どもにも、小さいうちから感じてもらえるようなことは必要だと考える。

(委員)

今、文科省の方でキャリアパスポートを作るようにという働きかけをしている。小学校から高校卒業まで、累積していった形で自分の夢がどのように変容していったか、実現できているかというのを作るようになっていくが、そこについては今後具体的に、石巻市独自のものがあっても良いのではないかと。

次に、県内唯一の女子高である桜坂高校について、来年の構想を見るとまた人数が減らされる。私はそこは頑張らなくてはいけないのではないかと。女子教育をどうしたら良いのかというところ、石巻唯一の公立の女子高として具体的にというところがみえない。

そこで、たとえば対応方針3の施策3のところ、義務教育だけでなく、市立の高等学校についても、掲げる必要があるのではないかと。

また、例えば対応方針2と対応方針3というのは関連している。全項縦でみていくというよりは、横の関わりもみていくべきではないのか。特に市立高等学校については、注視しながら対応していただきたい。

(事務局)

総合戦略のそれぞれの対応方針は縦につながる関係だけではなく、横の関わりも

多くなってくる。学校教育の充実の中に市立の高等学校も入れたいところであるが、市内には、市立の高校だけではなく県立の高校もあるので、連携しながら取り組んではいるが、その部分はいれられなかった。現在、市内の高校3年生と石巻専修大の3年生に意識調査を毎年行っている。その中で、市立高校に通っている生徒さんにも回答をいただきながら、分析をさせていただく。調査は毎年行っており、その年その年の成果を参考にしながら、今後も取り組んでいきたい。

(委員)

学校が楽しいと感じている生徒の割合というのは、児童生徒じゃないのか。つまり小学生も入るのでは。全国学力学生状況調査のアンケート項目に基づいてやっているとすれば、これは児童という言葉も入れるのではないかという意見。

もう一つ、気になったのがスクールカウンセラーを配置すれば、100%となっているが、学校の規模だったり、毎日常駐しているかといったらこれは違う。全国の中でも宮城県、宮城県の中でも石巻市の不登校の出現率は結構高い。こうした場合に、スクールカウンセラーと、かなり有力なのがスクールソーシャルワーカーの役割。スクールソーシャルワーカーの中には、臨床心理士の方だったり、社会福祉士の方、そういう専門職の方が関わっていて、スクールカウンセラーというのは元学校の先生だったりする。不登校が解消していれば良いが、様々な家庭の課題を解消しているのはスクールソーシャルワーカーであるところが大きい。

(事務局)

本来の学校に行けなくなってしまった子どもには、臨床心理士やけやき教室などでも対応させていただいている。そのような中でお子さんが回復し、本来の学校に戻っている方も多いと聞いている。いずれも、一つの専門領域の力だけではなく、様々な領域の方の力をいただきながら、子どもたちに対応している状況である。今後も継続して、様々な分野の方々に御協力いただきながら、取り組んでいかなければならない分野だと感じている。

(事務局)

横にぶら下がる主な取組等、全てをここに網羅できない中で示させていただいている。そのような中で、皆さんからいただいた意見は、各部に示しながら、政策に反映するように我々も取り組んでいく。

(委員)

対応方針1として「安定した雇用を創出し、稼ぐまちをつくる」と示し、最後に事業例として産業創造助成金や、6次産業化推進事業、創業支援補助金という記載になっている。このところを、大きな目標に対する例なども含めて、道筋を踏んでいく、因果関係的な組み立てを取り組まれたら良いのではないか。これは一つの例であるが、横江委員から発言のあった子育てのこと等、全部つながっていると思う。

(事務局)

様々な部署において、自分たちの事業が人口増加にどう結びつくのか考えながら取り組んでいくと、数値目標やKPIに結びついていくと思うので、各部署にアピールしていく。

(副会長)

移住については、創業してくれるような若い層だけではなく、第二の人生を石巻でと考える層も貴重なターゲットなので、若い方向けの発信と、年齢の高い方向けの発信をそれぞれ考えていただきたい。

新型コロナで経済的に各方面で大打撃を受けていて、経済活動がこれまでと同じように戻るのか不安である。計画にはそういったことがうたわれなくて良いのか。

(市長)

若い方の移住もありがたいが、確かにそれだけではない。環境の良い石巻でゆっくり過ごしたい、農業で自給自足をしながら住みたいという方に対しても魅力あるようにどのように発信したら良いかが一番大事だと思う。そういうPRもしながら、しっかりと定着も進めていきたい。

(事務局)

コロナの影響を10年間の計画全体に反映させるのは苦しい部分があるが、基本計画の中では触れている。一部ではあるが、そのようなことも考慮しながら、5年、10年の道筋を計画している。

(事務局)

この総合計画は10年間という長いスパンである。一定程度普遍的な内容で作らざるをえない。ただ、入り口のところでコロナが発生している前提はありながら、普遍的なものとして作る。コロナの影響が、まだ先が見通せないが、どの分野にどういった影響が出るのか注視しながら、これは石巻市としての責務だと思うので対応していかなければならないと考えている。

(委員)

保育施設の待機児童について、今0～2歳の小規模保育がたくさんできたが、働き続けるためのその次の保育所に入れず、幼稚園に入ることになったので、働き方を変えなくてはいけないということを聞いた。人口の動向を見ながら、どんな保育が良いのか等、先を見通しながらニーズの把握をしていくことが大事だと思う。

また、最近大きな地震が続いた中で、赤ちゃんを育てるお母さんたちから、不安感が寄せられている。赤ちゃんがいると避難が難しい。若い世代で、これからも石巻に住んで子どもを育てて欲しいと思って私たちも関わっているが、そういう方たちへのメッセージを市全体でもしてもらえたら安心感が高まると思う。

(事務局)

現在、保育所と幼稚園の再編計画を進めている。保育所のつなぎの部分の難しさに

ついて、保育の担当部署に伝え検討する。

子育てについても、地域として子育てに参加していくような状況になれば、安心して子育てができるのではないかと考える。

(委員)

皆で頑張ることだとは思いますが、大きなメッセージを出せるのは市の力だと思う。

(市長)

産後6か月間、お手伝いを受けられる制度について、6月議会に提案している。6か月以降も、行政等とうまく連携がとれるような仕組みを作れば、より子育てがしやすくなって定住しやすくなると考えている。

(委員)

人口戦略という視点で、コミュニティ・スクール推進事業とあるが、国の方針とするとここ1・2年で努力義務としてやらなければならない。ただ、コミュニティ・スクールを作ったらそれで終わりではなく、次の段階は何なのかというところを御検討いただきたい。例えば市内だと小学校33校のうち複数学級があるのは11校くらい。つまり3分の2は単学級。学区を見直していかないと、これは人口にも関係してくるのではないか。規模の小さい学校は特認校扱いするが、国に申請して学区ではなく特色ある学校に転学できるという制度があるはずである。色々な方策をとれば、小中連携というところまで持っていくステップの一つになるのではないか。広島県福山市では実際にそういうことで全国から集まってきている学校もある。

(事務局)

石巻市では、今は学区再編計画を進めているところで、その中では地図の区割りを変えるのではなく、学校同士の合体をメインに考えているところかと思う。コミュニティ・スクールについては、まずは学校単位でスタートして、中学校単位といった大きな縦割りとしての活動まで発展すると人も集まりやすく、暮らしやすくなっていくと思う。

(委員)

質の高い暮らしのためのまちの機能の充実を図るところで、公共交通利用者数を現状より増やすということである。移住者を増やすときに、都会の方から来る方は皆さんが車を持っている方ばかりではない。そこで、誰でも利用できる市民バスのようなものが常に走るまちをつくってはどうか。格安で移動ができる手段について、今後石巻に必要な人口を増やすための政策としていれていただきたい。

(事務局)

総合交通戦略の改定作業を今行っているが、その中で、あらゆる移動手段で、あらゆる利用者を網羅しながら、計画・実行していくこととしている。石巻市の場合はかなり特色が強く、中心市街地のエリア、新蛇田のような新興住宅地、そして人口が減少しているエリア等かなり多岐にわたる課題がある。それを一つ一つ整理し、地元の

皆さんと意見を交換しながら、集約していく予定でいる。

(委員)

福祉環境の充実について、ごみ出しが困難な方がいらっしゃるが、収集業者と交わす契約書のなかに一項、個別収集するというのを加えれば、お金は今の状態のままでも個別収集できるという話を業者から聞いた。その辺も考えていただければ。

(事務局)

今現在、石巻市では個別収集は行っていない。全て業者委託である。市が契約する条項の一つ加えると市の委託料の支出が増えるということにもつながるので、どういったやり方があるのかについて担当部にも伝えさせていただきたい。ごみ出しのできない高齢者のサポートについては、介護事業等も関わりがあると思うので、総合的な見方で対応していく必要がある。

(委員)

大阪市のある小学校の校長先生が、大阪市長あてに学校の先生の実態について提言をだした。先生方は他の業務が多忙で、子どもに接する時間が少ないという内容であったが、石巻市ではどうなのか。

(事務局)

確かに先生方は授業以外の事務作業が多くて大変だという話しは伺ったことがある。先生方の本来の業務は、子どもたちに向き合うことである。そのための手段として手伝ってくれる人がいいのか、コンピューター等の力を借りて負担減を図るのがいいのか、答えはすぐにはでないが、大事なところではあると思う。

(委員)

宮城県水産高校と石巻北高校の評議委員を十数年している。先生方が子どもと向き合えないほど事務が多い。かつては学校は運営であり、今は学校経営と定義されている。文科省から学校には企業の経営スタイルのレポート提出が求められる。教育学部卒業の先生からすると、そういう勉強をしてきていない中で、大変な思いをしているのが実態。このレポートで評価をされるので、先生たちは時間を割かれて子どもたちとの時間が非常に少ないということがあることをよく知っていただきたい。

(事務局)

教育委員会内部でも、学校の先生が子どもに向き合う時間が取れないというのが問題だということは共通の認識であった。国や県から調査があった際は、なるべく教育委員会内部で答えられる内容のものは答えて、現場の学校まで作業を求めないようにするという努力は教育委員会内部でもしていた記憶がある。しかし、まだまだ多い事務作業、子どもたちに対する時間の確保はいずれにしても大事である。

ウ 今後のスケジュールについて（説明：SDGs地域戦略推進室）

質疑なし

5 その他

- ・SDGsパートナー企業の募集について（説明：SDGs地域戦略推進室）

6 閉会のあいさつ

（副会長）

いよいよ今年度もスタートし、次回、評価検証ということで、また皆さんのお知恵を借りながら、後藤会長のもと進めていきたいと思うのでさらなる御協力をお願いしたい。今日は齋藤市長から沢山のお話が聞けて、我々も今市がどのように動き出そうとしているかが分かった有意義な時間だったと思う。

7 閉会

石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議名簿

(令和3年6月9日)

No.	氏名	所属	備考
1	安住 栄一	牡鹿地区住民代表	出席
2	阿部 紀代子	コンパクトシティいしのまき・街なか創生協議会	副会長 出席
3	荒木 裕美	NPO法人 ベビースマイル石巻	出席
4	伊藤 桂子	桃生地区住民代表	出席
5	井深 修一	株式会社七十七銀行石巻支店（代理：鎌田様）	出席
6	岩井 美喜子	石巻市町内会連合会女性部会	出席
7	木村 美保子	NPO法人 いしのまきNPOセンター	出席
8	後藤 宗徳	一般社団法人石巻観光協会	会長 出席
9	西條 拓也	いしのまき農業協同組合	欠席
10	佐藤 秋子	いしのまき農業協同組合	出席
11	佐藤 清子	河南地区住民代表	出席
12	佐藤 尚美	北上地区住民代表	出席
13	杉浦 隆浩	一般社団法人 石巻青年会議所	出席
14	須能 邦雄	石巻市水産振興協議会	出席
15	高橋 真由美	雄勝地区住民代表	出席
16	中川 尚仙	石巻商工会議所	出席
17	芳賀 信幸	石巻市地域包括ケア推進協議会	出席
18	畑山 實	連合宮城石巻地域協議会	出席
19	堀井 栄	河北地区住民代表	出席
20	横江 信一	石巻専修大学	出席

アドバイザー

	鍋木 祐人	総務部総務課 法制企画官	欠席
--	-------	--------------	----